

第 266 回 安田学園の安田善次郎像と安田一像

筆者：林 久治（記載：2024 年 2 月 21 日）

（1）前書き

私（筆者の林）は [Random Walks（乱歩）](#) という題名で [偏屈老人（林久治）の気促な紀行文](#) のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は「日本の銅像探偵団」 ([1\) のサイト/](#)) の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン！」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「①見つけ難い場所に隠れている有名人の銅像。②市井で頑張って人生を過ごしたが、有名人ではない人物の銅像」という意味である。私は自宅が東京にあり、孫達が大阪にいますので、主として東京近郊と近畿地方で銅像探索を行っている。最近、私はネット記事を丹念に調査し、そのような「スクープ銅像」の候補を多数見つけている。私の銅像探索記の全ては、[2\) のサイト/f](#) から閲覧出来ます。

今年の冬は暖冬で、私は毎週末に、健康増進を兼ねて銅像探索に行っている。しかし、空振りも少なくない。私は 1 月 5 日に三鷹市法専寺の釋稱念像と府中市多磨寺の菅野運徹像を探索し、[261 回の記事/f](#) にその探索記を記載した。1 月 13 日には、東京国立博物館に行き、[1\) のサイト/](#) に収録されていない狩野芳崖像（1933 年、藤田文蔵作）を見に行ったが、展示されていなかった。当日は、本館の ([1\) のサイト/](#) に収録されている) ジェンナー像と町田久成像とを探索し、その探索記を [263 回の記事/f](#) に記載した。

1 月 19 日に、私は [1\) のサイト/](#) に収録されていない坂本龍之輔像を、台東区立駒形中学校で探索した。その際、銅像周辺からは本像の制作者や制作時期が不明であった。そこで、私は 1 月 27 日に台東区中央図書館に行って、これらの情報の調査を依頼した。その結果、資料室の菊池さんが大正時代の新聞復刻版から、本像の除幕式の記事があることを発見された。坂本龍之輔像の紹介記事は少々あるが、本像の制作者や除幕式を報道した記事は皆無で、**今回の発見は「日本の銅像研究史上」極めて重要である。** 本発見の内容を書き加えて、私は坂本像の探索記を [262 回の記事/f](#) に記載した。

私は 1 月 27 日に台東区中央図書館に行ったついでに、日暮里駅で降りて、東口ロータリーにある太田道灌像と紅血像を探索し、その探索記を [264 回の記事/f](#) に記載した。2 月 10 日に、私は墨田区に行って、勝海舟像と加納金助像を探索し、これらの探索記を [前回の記事/f](#) に記載した。墨田区の銅像を検索していると、[3\) のサイト/1](#) に安田善次郎像が安田学園にあることを見つけた。本像は、[1\) のサイト/](#) に収録されていないので、探索することとした。

しかし、アポなしで安田学園に行くと、断られる危険性がある。そこで、私は 2 月 15 日に本園に電話して、安田像の見学を依頼した。電話に出られた事務の渋谷さんが快諾して下さったので、私は 2 月 16 日に本園に行った次第である。本稿はその探索記である。なお、本稿では私の意見などを **青文字** で、資料の内容などを **緑文字** で記載する。

(2) 安田学園



図1.

上：安田学園の周辺地図、

下：旧安田庭園。



図1上に、安田学園の周辺地図を示す。私は、大江戸線両国駅で降りて、旧安田庭園の前を歩いて安田学園に行った。図1下には、旧安田庭園の北口と、庭園内の池を示す。この地域一帯は、かつて安田財閥の当主の邸宅があった場所である。この地域の歴史は、[3\) のサイト/1](#) に詳しく説明されている。

[4\) のサイト/1](#) は、東京でお散歩できる公園の内、「旧安田庭園」について写真付きで次のように紹介している。

「旧安田庭園・北門」は通りを挟んだ向かい側には横網町公園がある。「旧安田庭園・西口」は通りを挟んで向かい側には両国国技館がある。元禄年間（1688-1703）、常陸国笠間藩主だった本庄宗資（むねすけ）が造ったと伝えられる。明治維新後は旧備前岡山藩主・

池田侯から安田財閥の祖・安田善次郎へと所有者が変わり、1922年に当時の東京市に寄贈された。戦後は墨田区に移管され、全面的な改修を行って今日に至る。



図2. 安田学園の校舎

旧安田庭園の先に、安田学園の校舎があった。その写真を図2に示す。[3\)のサイト/1](#)は、安田財閥の創始者の安田善次郎氏が安田学園を開設した経緯を次のように書いている。

安田学園開設の経緯には、商工業に必要な人材育成に関心が深かった善次郎翁の遺志がある。1918年、経営に困窮する東京府教育会付属東京植民貿易語学校から援助を求められた善次郎翁は、6万円を寄付して財団組織を結成する。その熱意を継承した二代目善次郎は1923年の東京保善商業学校の併設も応援。関東大震災で校舎が焼失すると、元深秀園の敷地を提供して再興を後押しした。やがて100万円の基金をもとに保善商工教育財団を設立。深刻化する不況の中、1927年には工業高校の併設も果たす。1936年に保善商工教育財団傘下の2校は安田商業高校、安田工業高校と改称。それまでに安田財閥から財団に投じた寄付総額は83万円に及んだ。

現在では、学校法人安田学園教育会のもと、中高一貫教育を行う安田学園中学校・高等学校が運営されている。スポーツにも力を入れており、硬式野球部が2013年の第85回記念選抜高校野球大会で甲子園初出場。惜しくも初戦で敗退したが、多くの応援を集めた。設立当初より男子校であった安田学園だが、2014年から男女共学に移行している。医療、人材教育、そして市民が集い憩う場。安田家の社会貢献はつねに、広く公共の利益へと目を向けて行われてきた。

(3) 安田学園の安田善次郎像

私は安田学園の校舎に到着し、事務室で渋谷さんにお会いした。彼は若手職員で、私を校庭にある安田善次郎像まで案内して下さった。(本文はp.5に続く)



図3. 上：安田善次郎像の周辺、下左：安田善次郎像、下右：本像背面の制作者サイン。

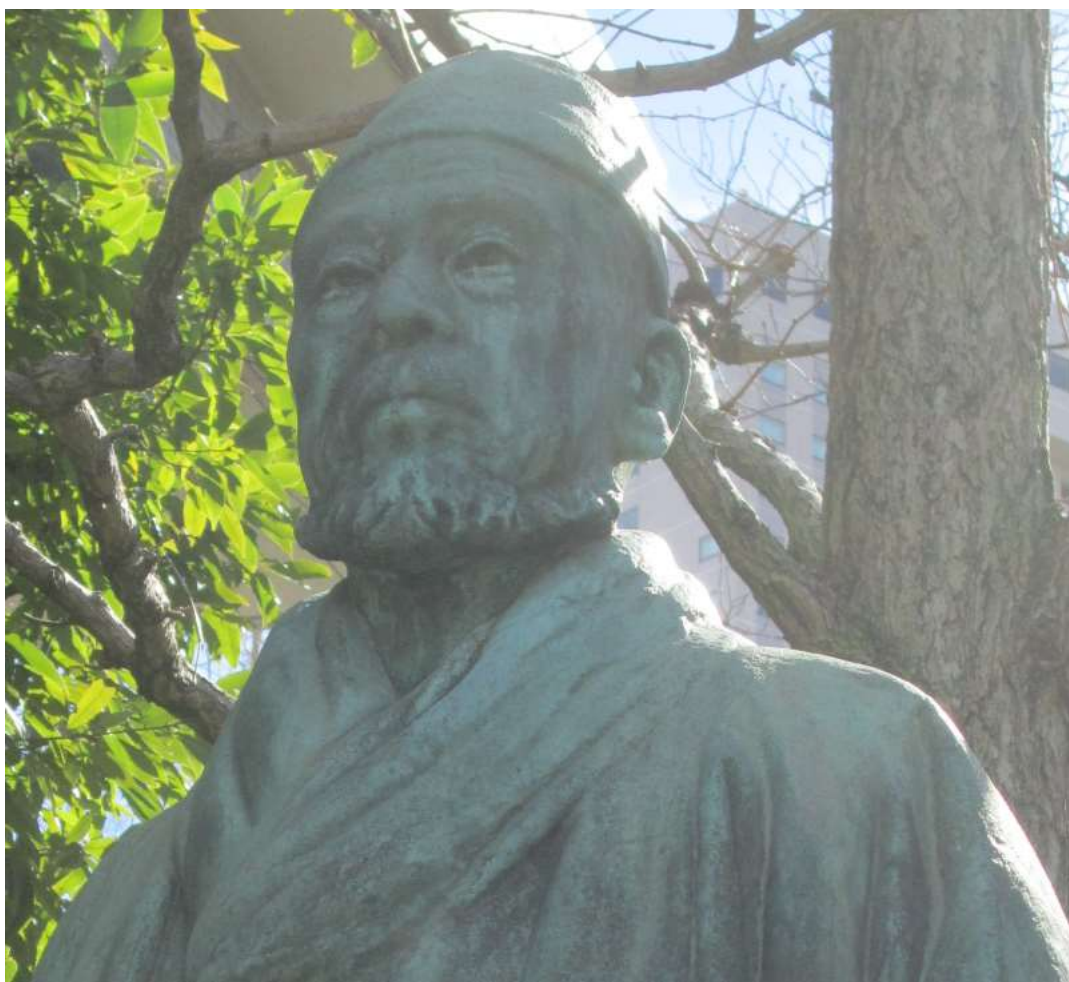


図4. 安田善次郎像のお顔

図3上に安田善次郎像の周辺を、図3下左に安田善次郎像を、図3下右に本像背面の制作者サインを示す。図4には、安田善次郎像のお顔を示す。制作者サインには、次のように書かれていた。

安田善次郎翁七十六才 寿像 北村四海謹刻 大正二年十一月

本像ハ大理石像ヨリ複製ス 昭和三十三年六月 正信

本像は、[1\) のサイト/](#)の「富山県呉東地域（富山市）」に収録されている立像と同じである。北村四海と北村正信の略歴は、[226 回の記事/f](#)で紹介した。その内容を、以下に再録する。

北村四海（1871-1927）は日本初の大理石彫刻家。北村正信（1889-1980）は新潟県市振村（現糸魚川市）生まれ。旧姓虎井、幼名は友吉。宮彫師である母方の祖父三代北村正信について木彫を習う。1903年パリ留学から帰国した叔父北村四海の呼び寄せに応じ上京、翌年太平洋画会研究所に入り中村不折、満谷國四郎に基礎デッサンを、新海竹太郎、北村四海に彫刻技法を学ぶ。1909年北村四海の養子となり五代北村正信を襲名。

安田善次郎翁の経歴は、ウィキペディアや[5\) のサイト/](#)など多くの資料に記載されている。以上の資料などにより、安田像の概要は次の通りである。

安田善次郎翁立像

設置場所：東京都墨田区横網 2-2-25 安田学園中学校高等学校校庭

大理石像制作：北村四海（1913年11月）

銅像複製：北村正信（1958年6月）

設置経緯：安田善次郎翁（1838年11月25日 - 1921年9月28日）は安田財閥の創始者。

富山藩下級武士（足輕）の安田善悦の子として生まれる。安田家は善悦の代に士分の株を買った半農半士であった。善次郎翁は1858年、奉公人として江戸に出る。最初は玩具屋に、ついで鯉節屋兼両替商に勤めた。25歳で独立し、乾物と両替を商う安田商店を開業した。やがて安田銀行（後の富士銀行。現在のみずほフィナンシャルグループ）を設立し、その後には損保会社（現在の損害保険ジャパン）、生保会社（現在の明治安田生命保険）、東京建物等を次々と設立した。

1921年9月27日、神奈川県中郡大磯町にある別邸・寿楽庵に「弁護士・風間力衛」と名乗る男が現れ、労働ホテル建設について談合したいと申し入れたが、善次郎翁はこの面会を断った。翌日、再度翁のもとを訪れた男は門前で4時間ほどねばったところ、面会が許された。午前9時20分ごろ、翁は別邸の十二畳の応接間で男から短刀で切り付けられ、逃げようとしたが廊下から庭先に転落したところを咽頭部に止めを刺されて死亡した。享年82歳。東京大学の安田講堂や、日比谷公会堂、千代田区立麴町中学校校地は善次郎翁の寄贈によるものであるが、「名声を得るために寄付をするのではなく、陰徳でなくてはならない」として匿名で寄付を行っていたため、生前はこれらの寄付が行われたことは世間に知られてはいなかった。

商工業に必要な人材育成に関心が深かった善次郎翁は、1918年、経営に困窮する東京府教育会付属東京植民貿易語学校から援助を求められ、6万円を寄付して財団組織を結成する。1923年に本財団は、東京保善商業学校（現・安田学園中学校高等学校）を併設した。

（4）安田学園の安田一像



図5.
安田一先生之像
の周辺

私は渋谷さんに案内されて、安田善次郎翁立像にお会いすることが出来た。善次郎像に到着すると、何とまあその隣にもう1基の胸像があるではないか！安田学園に善次郎翁像以外の銅像があることは予期せぬ発見であった。本像の周辺写真を図5に示す。



図6. 左：安田一像、右：本像の題字。

図6左に安田一像を、図6右に本像の題字を示す。題字には「**安田一先生之像**」とあった。安田一像は[1\) のサイト/](#)の「富山県呉東地域（富山市）」に収録されている。[1\) のサイト/](#)の安田一像は、不鮮明であるが眼鏡をかけている。従って、富山の像は、安田学園の本像とは同一ではないようだ。

次ページの図7に、本像台座背面の顕彰文を示す。それには、次のように書かれていた。

安田一先生顕彰之記

先生は明治四十年 初代安田善次郎翁の孫として本所横綱の安田邸に生まれ 昭和七年 東京大学文学部を卒業された 昭和十九年二月から昭和二十一年まで学校法人安田商工教育会の前身である保善商工教育財団の第五代理事長に就任され 戦後の混乱期に当り学園復興に心血を注がれた 再び 昭和二十六年十一月から平成三年三月までの長きにわたり 学校法人安田商工教育会第七代理事長として学園の隆盛に尽力された 特に千葉県鎌ヶ谷市に総合グラウンド 創立五十周年を記念して新潟県越後湯沢にセミナーハウスをそれぞれ建設 創立六十周年には校舎の全面改築など教育設備の充実に徒力をされた

先生は安田商工教育会理事長のほか 数々の著名会社団体役員を歴任 広く経済文化の面でも活躍され 藍綬褒章などのほか勲二等瑞宝章を受章 平成三年三月二十六日 八十三才を以て逝去され従四位に叙せられた

本年安田学園創立七十周年に当り 茲に先生の胸像を建立し 本学興隆の祖としてのご高徳を永く伝えるものである

平成五年十月二十九日 安田学園 同窓会 謹撰

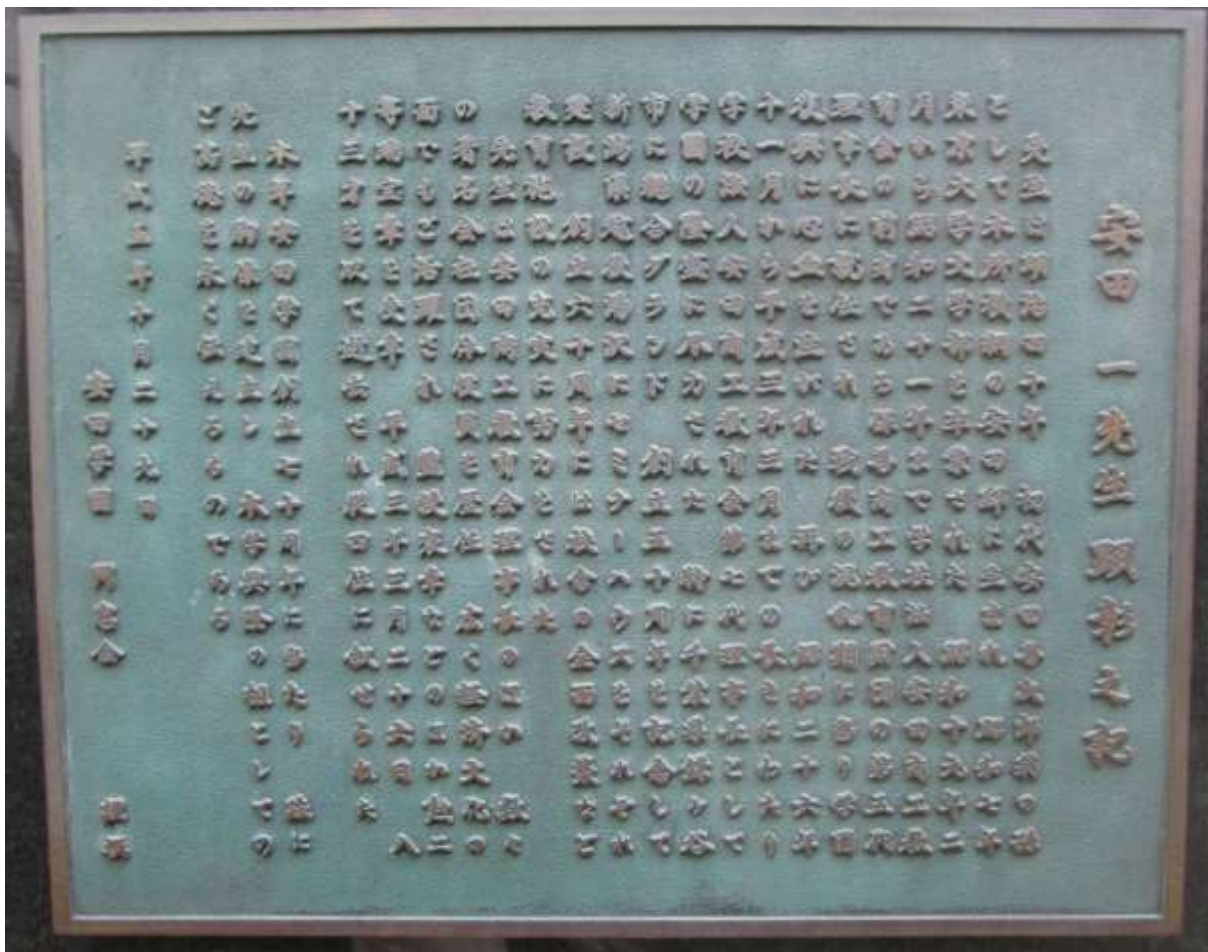


図7. 本像台座背面の顕彰文

本像周辺には、以上の資料の他に掲示はなかった。従って、本像の制作者は不明である。安田一の経歴はウィキペディアなどに記載されている。以上の資料などにより、安田一像の概要は次の通りである。

安田 一先生之像

設置場所：東京都墨田区横綱 2-2-25 安田学園中学校高等学校校庭

制作者：不明

設置時期：1993年10月29日（安田学園創立70周年）

設置経緯：安田 一氏（1907年4月14日 - 1991年3月26日）は、安田財閥三代目当主。二代目安田善次郎氏（1879-1936）の急逝のあとをうけて、1936年、29歳で安田保善社総長に就任。以後安田銀行会長、安田生命会長など、安田グループの要職を歴任。1945年財閥解体にともない、翌年公職追放となるが、日本貯蓄銀行（後の協和銀行）会長を経て、1953年安田生命会長、安田火災海上相談役に復帰。経団連顧問、日本デンマーク協会会長

等を務めた。一氏は、1944年から1946年まで、及び（公職追放の期間を除いて）1951年から1991年までの長きにわたり、安田学園理事長として学園の隆盛に尽力した。

参考資料

- 1) のサイト：<https://douzou.guidebook.jp/>
- 2) のサイト：<http://masaniwa.web.fc2.com/Ranpo.pdf>
- 3) のサイト：<https://www.yasuda-re.co.jp/yasuda/meguri/page07.html>
- 4) のサイト：<https://www.tokyo-walk.com/park/kyuuyasudateien.html>
- 5) のサイト：[安田 善次郎 の史実やエピソード/交遊録/家系図を独自調査 - 真★日本人の日本史 \(omoide.us.com\)](#)